

各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標設定
フローチャート（第三次案）

1 目的

- ・学習指導要領に基づき、観点別学習状況の評価における「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」について、生徒が身に付ける能力を各学校が明確化し、主に教員が生徒の指導と評価の改善に活用すること。

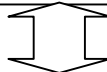
〈検討体制〉

- ・学習到達目標の設定過程に外国語担当教員等全員が参加し、管理職の理解や協力、リーダーシップのもと、言語を用いて何ができるようになることを目指すかという観点から、生徒の実態を踏まえた上で、育成したい能力や生徒像、学習指導要領に基づいた指導と評価の方法を共有する体制を構築。



2 卒業時の学習到達目標設定

- ・生徒の学習の状況や地域の実態等を踏まえた上で、卒業時の学習到達目標を、言語を用いて「～することができる」という形で設定。（その際、学習指導要領上の目標等を踏まえることが必要。）



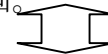
3 学年ごとの学習到達目標の設定及び年間指導計画と単元計画への反映（別紙参照）

〈学年ごとの学習到達目標設定〉

- ・卒業時の学習到達目標を達成するための学年ごとの目標を、「CAN-DO リスト」の形で設定。（必要に応じて、学習指導要領や既存の取組を参照。）

〈年間の指導と評価の計画への反映〉

- ・「CAN-DO リスト」の形で設定した学年ごとの学習到達目標を年間指導計画等に位置づけ。各単元における目標、主な学習活動、評価方法等を計画。



〈単元ごとの指導と評価の計画への反映〉

- ・各学校で実際に行われる学習活動を基に、各単元の目標及び評価規準を設定。
- ・教科書を中心に、単元の目標を達成するのに適した教材を活用した各時の学習指導を計画。
- ・目標の達成状況を把握するための具体的な評価を計画し、単元計画に位置づける。



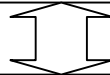
両者が相互に対応したものとなるよう調整

授業の実施

4 〈授業と評価〉

- ・ 言語を用いて何ができるようになるかという観点から計画した授業を実施。！単元の目標や評価規準を意識して授業を実施することが重要！
- ・ 観点別学習状況の評価における「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」について、評価の計画に従い、学習活動の特質等に応じて、生徒の学習状況を的確に評価できる方法で実施。
評価方法例：多肢選択形式等の筆記テストのみならず、面接、エッセー、スピーチ等のパフォーマンス評価、観察等
- ・ 単元等の区切りの中で適切に設定した時期において評価。さらに学期や学年といった単位で学習の実現状況をまとめる。

(注) 観点別学習状況の評価においては、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」及び「言語や文化についての知識・理解」の観点を併せて総合的に評価する。



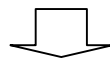
5 〈達成状況の把握〉

各単元の目標や学年ごとの学習到達目標の達成状況を把握し、指導や評価の改善に活かす。必要に応じて教科書の採択に活かす。



6 〈学習到達目標の見直し〉

設定した卒業時及び学年ごとの学習到達目標が適切であったかどうかを検討し、必要に応じて見直す。



2 〈学習到達目標の設定〉に戻る